

平成17年度(第49回)
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

**小学校国語科における書こうとする事を中心に
明確にして書く力を高める指導に関する研究**
- 調べた事をまとめる段階的な指導をとおして -

平成18年1月13日
長期研修生
所属校 宮古市立千徳小学校
今 西 顕 隆

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想	2
(1) 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本的な考え方	2
(2) 調べた事をまとめる段階的な指導の意義	3
(3) 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想図	4
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	5
(1) 実態調査の目的と内容	5
(2) 調査結果の分析と考察	5
(3) 手だてにかかわる配慮事項	7
3 基本構想に基づく手だての試案の作成	7
(1) 手だての試案	7
(2) 検証計画	8
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1) 調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた授業実践の概要	9
(2) 実践結果の分析と考察	13
5 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する研究のまとめ	15
(1) 成果	15
(2) 課題	16
研究のまとめと今後の課題	16
1 研究のまとめ	16
2 今後の課題	17

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

小学校国語科「書くこと」においては、相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように段落相互の関係などを工夫して文章を書く能力の育成が求められている。そのためには、書くことの過程全体をとおして、相手意識や目的意識をもたせ、記述の際だけではなく、書く材料の収集や選択、構成などにおいても相手や目的に応じて工夫させることが大切である。

しかし、児童の実態をみると、出来事や調べた事などの材料を集めて書くことはできるものの、結果的に、何を伝えたかったのかが分からない文章になっていることがある。これは、相手や目的に応じて、書く必要がある材料かどうか考えさせたり、どのような順序で書くとよいか文章構成を考えさせたりする指導が十分でなかったことが原因と考えられる。

このような状況を改善するためには、調べた事をまとめて書かせる活動において、調べた事を類似性の観点で整理する、まとまりを段落として順序を考えながら構成する、段落と段落の続き方を考え記述するといった段階的な指導をする必要がある。その際、各段階で常に書こうとした目的は何だったのか、ふり返らせることが大切である。

そこで、この研究は、調べた事をまとめる活動をとおして、書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導について明らかにし、小学校国語科における学習指導の充実に役立てようとするものである。

研究仮説

小学校国語科において、次のような指導を行えば、書こうとする事を中心を明確にして書く力を高めることができるであろう。

- ・ 調べた事を類似性の観点で整理する
 - ・ まとまりを段落として順序を考え構成する
 - ・ 段落と段落の続き方を考え記述する
- } 三つの段階をスモールステップに分けた指導
- ・ 「ふり返りカード」による書こうとした目的をふり返る指導

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想（文献法）

小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本的な考え方をまとめ、構成要素を明らかにするとともに、仮説に基づき書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導についての基本構想を立案する。

- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（テスト法）

児童の国語科の学習における書く活動に関する実態を調査し、その分析と考察を行い、問題点と課題を把握し、手だての試案の作成に役立てる。

- (3) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想及び実態調査に基づき、調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた手だての試案を作成する。

- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、テスト法）

調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた学習指導について、手だての試案に基づき単

元「大事なことをたしかめよう」の授業実践を行い、検証計画に基づいて、小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力の構成要素の育成状況について分析と考察を行う。

(5) 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づいて、小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する研究のまとめをする。

2 授業実践の対象

宮古市立千徳小学校 第3学年 1学級（男子14名 女子18名 計32名）

研究結果の分析と考察

1 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想

(1) 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本的な考え方

書こうとする事を中心とは、調べた事やそれによって深まった考えなど、読み手に伝えたい事柄ととらえる。このため、「書くこと」の指導においては、必要な事柄を集めたり、選択したりして内容や文章を構成する能力を育成することが重要である。その際、重視しなければならないことは、相手や目的に応じてという相手意識、目的意識をもち続けて書くことができるようにさせることである。なぜなら、この相手意識、目的意識は児童の書く活動を根本から支えるものであり、「自分が調べた事や考えたことなど相手に伝えたい」という思いや願いを生み出すものであるからである。

しかし、調べた事や考えたことをただ羅列したのでは、書こうとしている事、つまり、自分が伝えたいと思った事を分かりやすく相手に伝えることは難しい。相手に伝わるように書くためには、書きたい事柄がいくつかある中で書く必要の強いものや書く値打ちがあるものはどれかを選ぶ力が必要である。また、事柄をどのような順序で書くとよいか、詳しく書いたり簡単に書いたりする事柄はどれかといった見通しをもって、文章の組立てを工夫する力が必要である。

そこで、書こうとする事を中心を明確にして書く力の構成要素を「書く材料を選ぶ力」「文章を組み立てる力」「相手・目的への意識をもち続ける力」とする。この構成要素をまとめたものが【表1】である。

「書く材料を選ぶ力」と「文章を組み立てる力」を高めるためには、「伝えたい事は何なのか」「伝えることができる表現か」など、相

【表1】書こうとする事を中心を明確にして書く力の構成要素

構成要素	構成要素の意味
書く材料を選ぶ力	自分の考えや思いを伝えるために書く値打ちがある事柄か考えること
文章を組み立てる力	書こうとする事が伝わるように、調べた事や考えたことなどの事柄について、順序や軽重を考えること
相手・目的への意識をもち続ける力	調べた事や考えたことが相手に伝わるかを考えながら書く活動に取り組むこと

手や目的に応じているか確かめることが必要である。このことから、「相手・目的への意識をもち続ける力」は常に作用しているものとする。

以上のことから、本研究で目指す児童の姿を「相手や目的に応じて必要な事柄を選び、文章

の組立てを工夫して書くことができる」ととらえる。

(2) 調べた事をまとめる段階的な指導の意義

ア 調べた事をまとめる段階的な指導とは

書こうとする事を中心を明確にして書かせるためには、児童が意欲的に書きたいと思うような内容や、書く事の目的や意図が明らかで必要感のあるものの中に題材を求める必要がある。そこで、疑問に対する答えや新たな発見を人に伝えたいという願いをもたせることができる活動として、調べた事をまとめる活動を取り入れる。

調べた事をまとめる活動における三つの段階を、書こうとする事を明らかにするための段階「調べた事を類似性の観点で整理する」、調べた事やそれによって深まった考えが伝わるように構成するための段階「まとまりを段落としてその順序を考え構成する」、読み手に伝わるかを見直してから記述するための段階「段落と段落の続き方を考え記述する」ととらえる。この三つの段階に行う学習活動を「調べた事をまとめる活動におけるスモールステップ」として設定する。調べた事をまとめる段階的な指導とは、三つの段階をスモールステップに分けた指導のことである。【表2】は、三つの段階と「調べた事をまとめる活動におけるスモールステップ」のかかわりについてまとめたものである。

さらに、書く事の目的と学習の過程、活動の様子を記入させる「ふり返しカード」を各段階の終末において用い、各段階でどのような工夫や努力をして、その結果、書こうとする事が読み手に伝わりやすくなったかを考えさせることとする。

イ 調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れる意義

調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れることにより、各段階のねらいを明らかにして指導に当たることができる。さらに、スモールステップで支援を行うことにより、段階 1 では、書こうとする事に必要のある材料を選んだり、段階 2 では、相手に伝わるような文章に組み立てたりすることができるものとする。

併せて、各段階の終末においては、書こうとする事が読み手に伝わりやすくなったかどうか

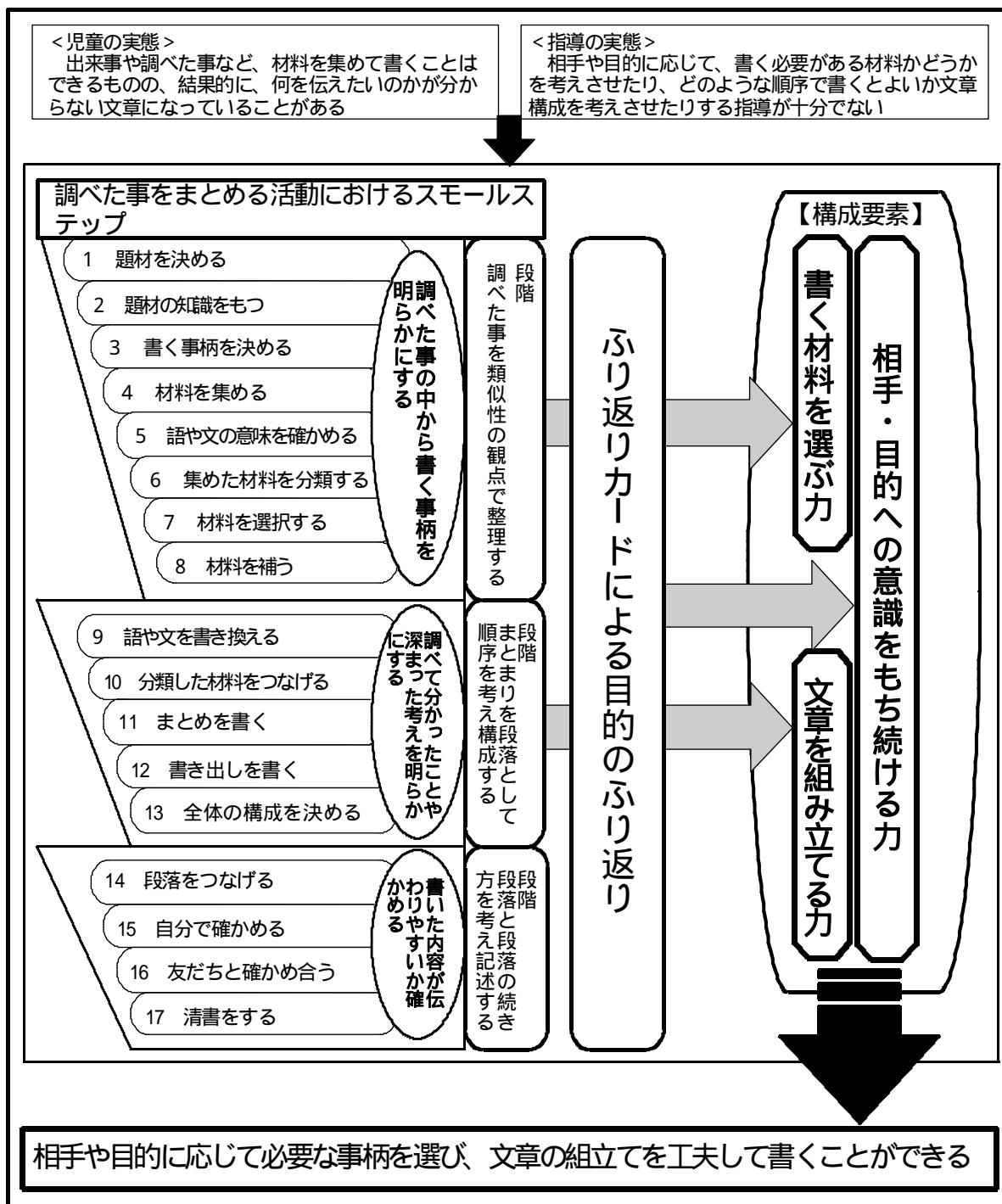
【表2】調べた事をまとめる活動におけるスモールステップ

段階	スモールステップ	活動内容
調べた事を類似性の観点で整理する	1 題材を決める	興味のある事柄や疑問に思っていることから調べる題材を決める
	2 題材の知識をもつ	題材について調べたことを記録カードに書き、調べた事を整理することにより、伝える値打ちのある事柄を明らかにする
	3 書く事柄を決める	題材について伝える価値のある事柄の中から書こうとする事を選ぶ
	4 材料を集める	書こうとする事にかかわる事柄を記録カードに書きためることにより、材料を集める
	5 語や文の意味を確かめる	記録カードの内容を見直すことにより、読み手に伝わりづらい語句の意味を調べ、分かりやすい語句に書き換える
	6 集めた材料を分類する	類似性を考えて記録カードをまとまりに分類し、まとまりに小見出しを付けることにより、調べた事柄を整理する
	7 材料を選択する	書く必要がある材料かどうかを考えることにより、不要な記録カードは削除する
	8 材料を補う	書こうとする事に足りない材料がないか確かめ、材料を補うことにより、必要な材料を決める
まとまりを段落として順序を構成する	9 語や文を書き換える	語句を易しい言葉にしたり、文末を揃えたりすることにより、分かりやすい文にする
	10 分類した材料をつなげる	まとまりごとに、小見出しと記録カードの内容を短冊原稿用紙につなげて書くことにより、「なか」の段落を構成する
	11 まとめを書く	調べた事から分かったことや深まった自分の考えを短冊原稿用紙に書くことにより、「おわり」の段落を構成する
	12 書き出しを書く	調べた題材のどのような事柄を伝えるかが分かるように、書き出しを書くことにより、「はじめ」の段落を構成する
	13 全体の構成を決める	「なか」に当たる調べた事の短冊原稿用紙の順序を考えることにより、全体の構成を決める
段落と段落の続き方を考え記述する	14 段落をつなげる	必要に応じて指示語や接続語を使うことにより、説明の順序を分かりやすくする
	15 自分で確かめる	難しい語句の表現の仕方、構成、表記の三つの視点で読み返すことにより、下書きとなる短冊原稿用紙の内容を点検する
	16 友だちと確かめ合う	難しい語句の表現の仕方、構成、表記の三つの視点で読み合うことにより、読み手の立場になって点検する
	17 清書をする	修正、削除、挿入した部分に注意して清書する

をふり返らせることは、活動に取り組んだことへの満足感をもたせたり、課題に気付かせたりするものとなる。また、次の段階においても相手に伝わるかを考えながら活動に取り組ませることができるものである。

このように調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れることは、相手・目的への意識をもち続け、書く材料を選ぶ力と文章を組み立てる力を育成するものである。このことから、書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める点で意義があると考えられる。

- (3) 小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想図
 これらの基本的な考え方に基づき、小学校国語科における書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

書こうとする事を中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想に基づいて、調べた事をまとめる段階的な指導を行う上での配慮事項を明らかにするために、次のような目的と内容で調査問題を作成し、7月22日（金）に調査を実施した。

ア 調査の目的

この調査の目的は、国語科の学習における書く活動に関する実態を把握し、その問題点や課題について明らかにして、調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた学習指導についての手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

イ 調査の対象

宮古市立千徳小学校 第3学年 1学級（男子14名 女子17名 計31名）

ウ 調査の内容

実態調査の観点と設問内容は、【表3】のとおりである。

（調査問題については、【補充資料1 - ~】を参照のこと）

【表3】実態調査の観点と設問内容

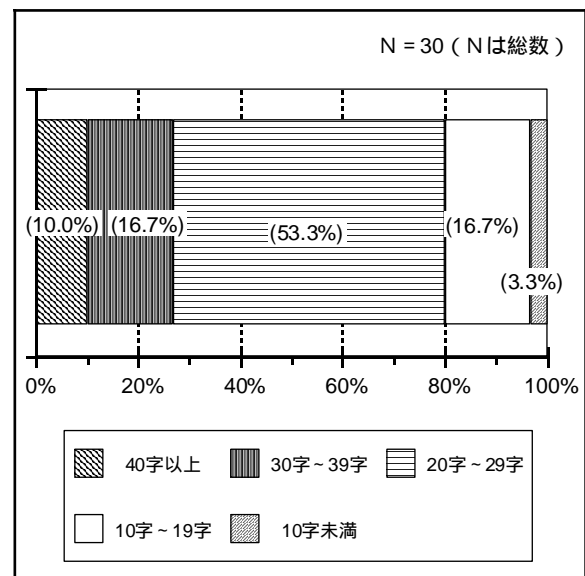
調査の観点	設問内容
文を書き写す活動に関する実態	文を書き写す速さはどのくらいか
語や文の意味を確かめる活動に関する実態	言葉の意味を国語辞典で調べる速さはどのくらいか
材料を分類する活動に関する実態	事柄の共通点を考え、小見出しを付けることができるか
記述する際の見直す活動に関する実態	助詞の使い方の誤りや誤字・脱字を見つけることができるか

(2) 調査結果の分析と考察

ア 文を書き写す活動に関する実態

【図2】は、文を書き写す際にどの程度の量をカードやワークシート等へ書き込めるかを調査した結果である。半数の児童は1分間に20字から29字を視写することができたが、文字数は9字から42字の範囲と散らばりがみられる。

このことから、個人差の大きいことが分かる。また、文字の形や筆圧から丁寧に書いたと思われる児童がおり、素早く書くという認識にも個人差のあると考えられる。そこで、文を書き写す活動の際には、視写の技能的な部分を指導するとともに、目的に応じて書く速さを変えなければならないことを理解させる必要があると考える。

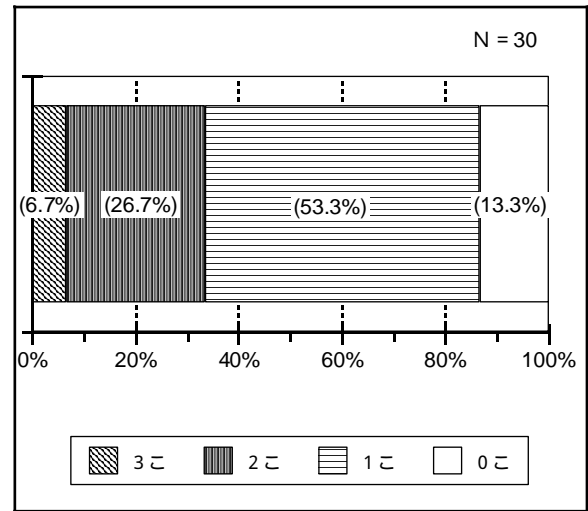


【図2】文を書き写す活動に関する実態

イ 語や文の意味を確かめる活動に関する実態

【図3】は、言葉の意味を国語辞典を使って調べる速さを調査した結果である。5分間で三つの言葉を調べることができた児童は6.7%、二つの言葉を調べることができた児童は26.7%、一つの言葉を調べることができた児童は53.3%、全く調べられなかった児童は13.3%であった。

このことから、言葉の意味を国語辞典で調べる活動に慣れていないことがうかがわれ、時間がかかることが予想される。そこで、調べる必要がある言葉を絞らせてから、調べさせる必要があると考える。

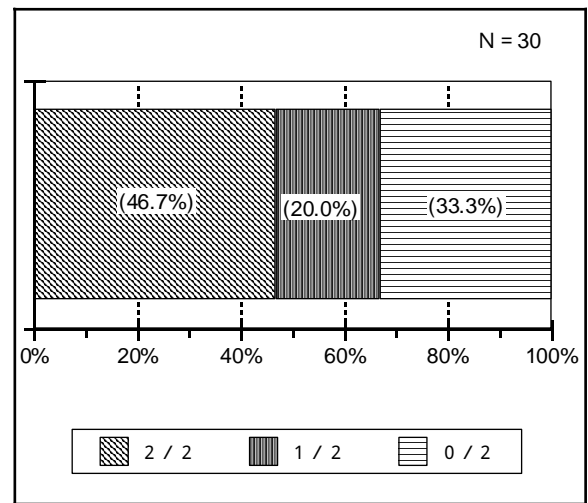


【図3】語や文の意味を確かめる活動に関する実態

ウ 集めた材料を分類する活動に関する実態

【図4】は、集めた材料の共通点を考え、分類した事柄に小見出しを付けることができるか調査した結果である。観点の異なる分類の仕方に対応させて、小見出しを付けることができた児童は46.7%、一つの観点から小見出しを付けることができた児童は20.0%、小見出しを付けることができなかった児童は33.3%であった。

このことから、集めた材料の共通点を考えることを苦手とする児童がおり、分類させる際には、個別に対応できる工夫をする必要があると考える。

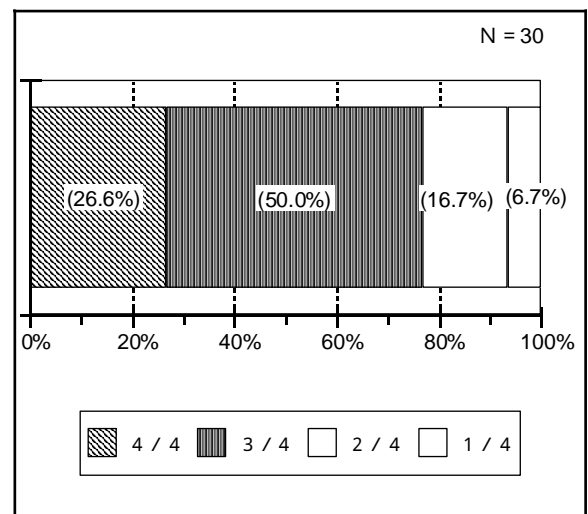


【図4】集めた材料を分類する活動に関する実態

エ 記述する際の確かめる活動に関する実態

【図5】は、文章を見直す際に、語句の誤りを見つけることができるかについて調査した結果である。全部見つけることができた児童は26.6%、三つ見つけることができた児童は50.0%、二つ見つけることができた児童は16.7%、一つ見つけることができた児童は6.7%だった。

このことから、誤りの気付きに個人差があり、読み直すことの習慣が不足している児童がいると考えられる。そこで、誤りを見つけやすいように、見直す際に声に出して読む場面を設定する必要があると考える。



【図5】記述する際の確かめる活動に関する実態

(3) 手だてにかかわる配慮事項

調査結果の分析と考察に基づき、手だてにかかわる配慮事項を次の四点とした。

- ア 材料を集める活動と清書する活動の際には、文節ごとに書き写すことを指導するとともに、材料をメモする場合と清書する場合では、書く速さを変えることを理解させる。
- イ 語句や文の意味を確かめる活動の際には、読み手にとって難しいと予想される言葉にサイドラインを引かせてから、意味を調べさせる。
- ウ 書く材料を分類する活動の際には、個に応じて分類の観点を例示し、小見出しを付けやすくさせる。
- エ 確かめる活動の際には、作品を微音読させることにより、語句の誤りに気付きやすくさせる。

3 基本構想に基づく手だての試案の作成

(1) 手だての試案

基本構想及び実態調査の分析結果を受け、調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れて作成した手だての試案が【図6】である。

段 階	スモールステップによる指導のポイント <small>□ 部分は実態調査を受けての配慮事項</small>	ふり返しカードによる指導のポイント
調べた事柄を類似性の観点で整理する 段階	1 題材を決める 2 題材の知識をもつ 3 書く事柄を決める 4 材料を集める □ 書き写す際には、文節ごとにカードに書くことと素早く写すことが材料を多く集めることにつながることを理解させる 5 語や文の意味を確かめる □ 読み手にとって難しい言葉にサイドラインを引かせてから、調べさせる 6 集めた材料を分類する □ 分類に迷っている児童には、分類する観点を例示し、分類の仕方を考えさせる 7 材料を選択する 8 材料を補う 記録カードによる書く材料の整理	各段階の終末において工夫や努力の様子とその結果として読み手に伝わりやすくなったかを記述させる
成し遂げるとする順序を考え構成 段階	9 語や文を書き換える 10 分類した材料をつなげる 11 まとめを書く 12 書き出しを書く 13 全体の構成を決める 短冊原稿用紙による段落の構成	
すき方を考え落記の述 段階	14 段落をつなげる 15 自分で確かめる □ 短冊原稿用紙を微音読させてから、文章を見直させる 16 友だちと確かめ合う 17 清書をする	

【図6】調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた手だての試案

(2) 検証計画

授業実践をとおして書こうとする事を中心を明確にして書く力の状況をとらえ、その結果により、手だての試案の有効性、仮説の妥当性について分析し、考察する。【表4】は検証内容と方法及び処理・解釈の方法を示したものである。【表5】は各段階における実現状況を見取るための観点であり、「書く材料を選ぶ力」と「文章を組み立てる力」が実現できているかを把握するために用いる。9頁【表6】は相手・目的への意識をもち続ける力の変容状況を見るための判断基準であり、各段階の終末にふり返りカードの記述内容と照らし合わせて判断する。

【表4】書こうとする事を中心を明確にして書く力の検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
力の育成状況	書く材料を選ぶ力 文章を組み立てる力	授業実践の事前事後にテストを行い、結果を比較する	t検定（平均の差の検定）を行い検証する
各段階における力の状況	書く材料を選ぶ力	調べた事を類似性の観点で整理する段階において、記録カードにより実現状況を見る	【表5】の各段階における実現状況を見取るための観点に基づいて分析・考察する
	文章を組み立てる力	まとまりを段落として順序を考えながら構成する段階において、短冊原稿用紙により実現状況を見る	
	相手・目的への意識をもち続ける力	ふり返りカードの記述内容により変容状況を見る 実践の過程における抽出児の活動の様子を観察することにより変容状況を見る	【表6】の判断基準により分析・考察する VTRや観察の記録、シートやカードの記述内容により分析・考察する

【表5】「食べ物がかせになろう」の各段階における実現状況を見取るための観点

段階	学習内容	実現状況を見取るための観点 (主に働く構成要素・評価方法)
段階 調べた事を類似性の観点で整理する段階	食べ物に関する本を読み、題材とする食べ物や調べる事柄を決める	食べ物について、誰にどのような事柄を伝えるのかを決めている (書く材料を選ぶ力・記録カード)
	題材に関する本を読み、材料を記録カードに書く	書こうとすることに関係のある材料を記録カードに書いている (書く材料を選ぶ力・記録カード)
	集めた材料から、書く必要のある材料を選ぶ	材料を分類し、書こうとする事を中心に沿って必要な材料を選んでいる (書く材料を選ぶ力・記録カード)
段階 まとまりを段落として順序を考え構成する段階	選んだ材料を内容のまとまりごとに段落として構成する	中心となる事柄とそれに必要な材料をつなげて、一つの段落に一つの事柄を書いている (文章を組み立てる力・短冊原稿用紙)
	「はじめ・なか・おわり」の構成を考えて、文章全体の組み立てを決める	書き出しやまとめの文に対応させてながら段落の順序を考えて全体の文章を組み立てている (文章を組み立てる力・短冊原稿用紙)

【表6】各段階における相手・目的への意識をもち続ける力の変容状況を見るための判断基準

観 点	段 階	ふり取りカードの記述例		
		A	B	C
相手に伝わるようにするために工夫や努力したことについて活動内容を基に書いているか	段階 調べた事を類似性の観点で整理する段階	集めた材料を整理するための工夫や努力したことについて具体的に記述している 記述例 ・まとまりに分けることをがんばりました。 ・言葉を簡単にすることをがんばりました。	材料を集めるための工夫や努力したことについて記述している 記述例 ・たくさんの材料を集めることをがんばりました。 ・調べた事を記録カードに書くことをがんばりました。	材料を集めるための工夫や努力したことについて記述していない 記述例 ・がんばって書きました。 ・食べ物のごとがよく分かりました。
	段階 まとまりを段落として順序を考え構成する段階	文章を組み立てるための工夫や努力したことについて具体的に記述している 記述例 ・段落ごとにまとまりをつくることをがんばりました。 ・読みやすくなるように順序を考えました。	文章を組み立てるための工夫や努力したことについて記述している 記述例 ・材料をつなげて文にしたことをがんばりました。 ・分かりやすい文にすることをがんばりました。	文章を組み立てるための工夫や努力したことについて記述していない 記述例 ・文を書くことができてよかったです。 ・がんばって書きました。
	段階 段落と段落の続き方を考え記述する段階	内容を伝わりやすくするための工夫や努力したことについて記述している 記述例 ・つなぐ言葉を考えて、段落をつなげることをがんばりました。 ・読みやすくなるように字の間違いを見直すことをがんばりました。	文字の形や大きさなどの読みやすい形式について努力したことを記述している 記述例 ・字を丁寧に書くことをがんばりました。	伝わる文に仕上げるための工夫や努力を記述していない 記述例 ・完成してよかったです。 ・さいごまでがんばって書きました。

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた授業実践の概要

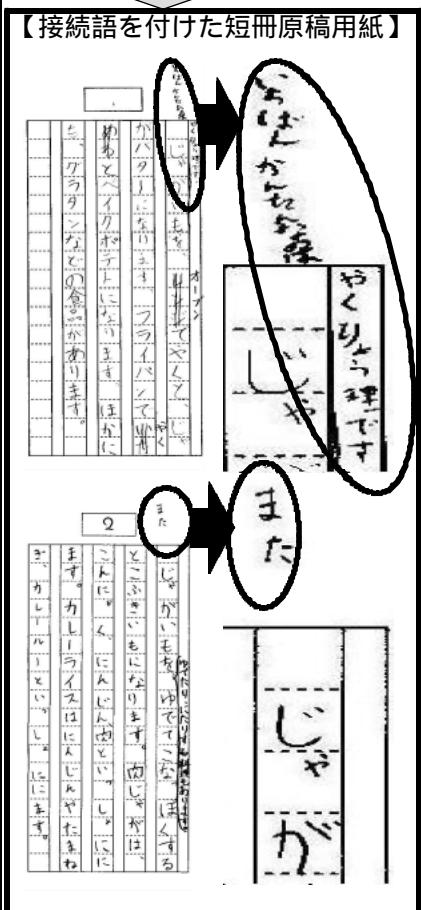

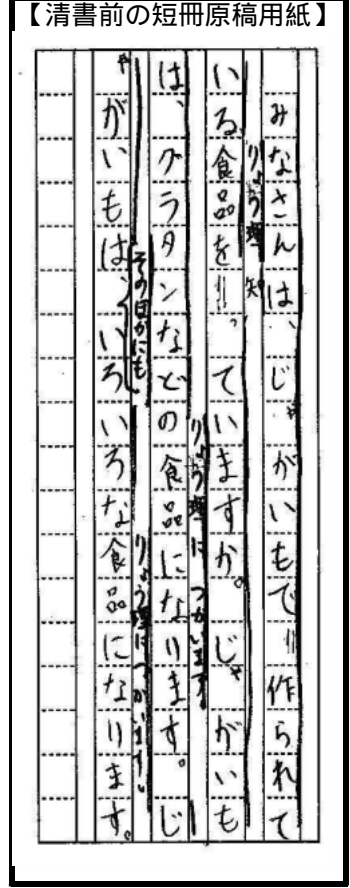
授業実践は、宮古市立千徳小学校第3学年（男子14名 女子18名 計32名）を対象として、平成17年8月26日から9月17日まで行った。単元名は「大事なことをたしかめよう」である。なお、授業実践の概要は、10頁から12頁までの【資料1】に示したとおりである。

（指導略案は、【補充資料3 - ~ 】を参照のこと）

【資料1】調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた授業実践の概要

段階 時間	段階 調べた事柄を類似性の観点で整理する(1~5/11時)								
	1・2時			3・4時		5時			
と その ねらい	題材を決める	題材の知識をもつ	書く事柄を決める	材料を集める	語や文の意味を確かめる	集めた材料を分類する	材料を選択する	材料を補う	
	調べる食べ物を決めさせる。	食べ物について伝えるうちのある事柄を見つけさせる。	食べ物に関する事柄から伝えたい事柄を選ばせる。	食べ物の伝えたいことに関係のある事柄を集めさせる。	集めた材料の語句を分かりやすくさせる。	小見出しを付け、材料を分類させる。	不要な材料を明らかにし、材料を絞らせる。	足りない材料を補わせ、必要な材料を決めさせる。	
学 習 活 動	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 30%;"> <p>「食べ物の何を教えればいいのか決められない。」</p> <p>あなたは、育て方、栄養、種類のうち、どれを教えたい?</p> <p>「種類のことを教えたい。」</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>「記録カードに何を書けばいいんだろう。」</p> <p>「一般的なって」どういう意味かな?</p> <p>「色がいろいろあることを教えたい。」</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>「記録カードをどうやって分けるか分かりません。」</p> <p>色や形で分けることができそうだけど、あなたは、何で分けられるかな?</p> <p>「いらぬ記録カードもあるんじゃないかな? ニンジンの種類は他にないの? 珍しいニンジンはあるのかな?」</p> </div> </div> <div style="width: 100%; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>【記録カードの分類】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【オレンジ色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金時ニンジンはあざやかなべに色で長さは30センチほどになる。 ・滝野川ニンジンは、日本で古くからある。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【赤色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニニンジンのは長さは10センチほどでそのまま生で食べるのがいっぱいまで。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【めずらしいニンジン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カブの形をしたニンジンがあって、ねの長さが50センチをこえるものがある。 ・野生のニンジンは、ニンジンのはふるさとにちなんでアフダンカイクとよばれる。 </div> </div> </div> <div style="width: 100%; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>【補ったカード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島ニンジンはおきなわだけでさいばいされている。(赤色のニンジン) ・野生のニンジンのは白。 </div> <div style="width: 100%; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>【削除したカード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンは尺貫法でねの長さをあらわし、五寸ニンジンは15センチほどになるニンジン。 ・せかいには、白や黄色、むらさき色のニンジンだってある。 </div> </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p>【記録カード】</p> </div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p>【調べた事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンのようにねを食べるやさいをこんさいという。 ・ニンジンが花をさかせるなんてはじめて知りました。カリフラワーみたいでした。 ・ニンジンにはしゅるいがあるってことをはじめて知りました。 </div> </div>								

段階		段階 まとまりを段落として順序を考え構成する（6～7/11時）				
時間		6時		7時		
と その ねら い	ス キ ル ス キ プ	語や文を 書き換える	分類した材料を つなげる	まとめ を書く	書き出し を書く	全体の構成を 決める
				記録カードに述語などの語句を付け加えさせたり、分かりやすい言葉に書き換えさせたりする。	小見出しを確認した後選んだ材料を短冊原稿用紙に書かせることにより、段落を構成させる。	調べた事によって深まった自分の考えを書かせる。
学 習	□ マークシート等の取扱い					
活 動	個に対応した 教師の支援	「カードのどこを変えるといいいんだろう。」	「調べた言葉の意味を付け加えるといいよ。 ・「なる」を「なります」と変えるといいいよ。」	小見出しを抜かして材料をつなげた児童	調べた事を「やく」「ゆでる」でまとめた児童	「わたしは、どんな順序にすればいいかな。」 分かりやすそうな料理や簡単に作れそうな料理の順序でもいいね。
		【書き換えた記録カード】	【短冊原稿用紙】	【まとめの文】	【書き出しの文】	
授 業 の 様 子		<ul style="list-style-type: none"> 第6時では、多くの児童が「めずらしいナスがあります。」のように小見出しを短冊原稿用紙の初めに書き、その後に「白いナスは生で食べることもできますが、見て楽しむことが多いそうです。」のように記録カードを基に段落を構成することができた。しかし、小見出しを短冊原稿用紙に書くことを忘れたため、書こうとする事の中心が不明確な文章を書いた児童も6名いた。 第7時では、書こうとする事を種類としていた児童の「おわり」の短冊原稿用紙を見ると、「～には、いろいろな大きさがあります。」のように伝えたい事柄を明らかにしていた。また、調べた事を説明する順序には、分かりやすい事例から書いたり、驚かせたいことを最後にしたりする工夫が見られた。 この段階のふり返りでは、工夫や努力したことを「まとめを書いたこと」と記述した児童が9名、「段落の順序を決めたこと」と記述した児童は9名、「書き出しを書いたこと」と記述した児童は6名「語や文の書き換えたこと」と記述した児童は3名となっており、伝わりやすくするために児童は自分にとって必要だった工夫や努力を具体的に記述していた。 				

段階 時間		段階 段落と段落の続き方を考え記述する (8~9/11時)			
		8時		9時	
学 習 活 動	スマートフォン とそのねらい	段落をつなげる 指示語や接続語を必要に応じて付け加えることにより、文脈の通った文章にさせる。	自分で確かめる 文章を見直させることにより、語や文の不足や誤りに気付かせ、伝わりやすい表現になるように工夫させる。	友だちと確かめ合う 複数の友だちと作品を読み合うことにより、読み手の立場になって作品を修正させる。	清書をする 修正した部分を確認させ、誤りがないように清書をさせる。
	ワークシート等の記述例	「説明の順序を分かりやすくするためには、どんな言葉を入れたらいいんだろう。」 順序を表す言葉には「はじめに」「一番～なのは」とか、「次に」「最後に」とかを付けるといいね。	この児童は、「りょうり」を「りょう理」と平仮名を漢字にする見直しだけを行った。 「見つけて見る」は「見つけてみる」だよ。それより、あなたは調べたんだから、「調べてみる」の方がいいかもしれないよ。	この児童のグループでは、「見つけて見る」という表記の誤りが気付かなかった。 (第9時の前に)じゃがいもの「食品」としていたところを「料理」と書くといいよ。	この児童は「じゃがいもを使った料理」と書くところを「じゃがいもで作られている食品」と誤って書いていた。 直したところを確認するためにサイドラインを引くと清書に写しやすくなるよ。
授 業 の 様 子	児童の様子	【接続語を付けた短冊原稿用紙】 	【自力で見直した短冊原稿用紙】 	【清書前の短冊原稿用紙】 	
	教師の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・第8時では、段落のつながりが分かるように接続語を付けさせたところ、説明する順序に沿って「はじめに」「次に」などの接続語を書き加えることができた。 ・短冊原稿用紙の表現の仕方について友だちと確かめ合わせたところ、自分の誤りに気づき、修正することができた児童もいた。一方で友だちの誤りにばかり目がいき、自分の誤りに気付くことができなかった児童もいた。 ・第9時では、写す部分にサイドラインを引かせ、修正部分に気を付けさせて清書に取り組みさせたところ、下書きの際に見られた誤字・脱字は減少していた。 ・この段階のふり返りでは、がんばったことと読み手に伝わるかについて記述させたところ、文や言葉を見直したことについて書いた児童は18名、字を丁寧に書いて読みやすくしたことについて書いた児童は13名であった。 			

(2) 実践結果の分析と考察

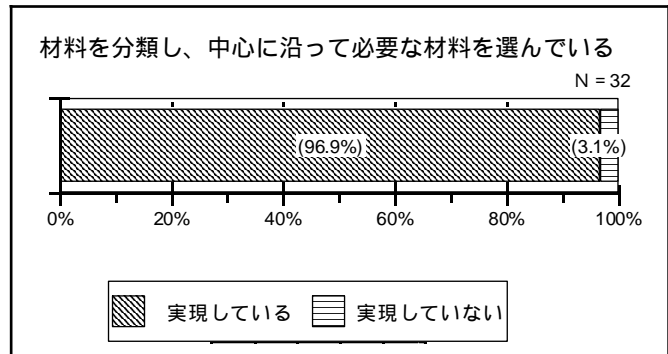
授業実践をとおして手だての試案の有効性をみるために、書こうとする事を中心を明確にして書く力の三つの構成要素「書く材料を選ぶ力」「文章を組み立てる力」「相手・目的への意識をもち続ける力」について、分析し、考察を行った。

以下は、書こうとする事を中心を明確にして書く力の三つの構成要素別における変容状況及び実現状況並びに育成状況である。

ア 書く材料を選ぶ力の実現状況と育成状況

8頁【表5】の「食べ物はかせになろう」の調べた事を類似性の観点で整理する段階における実現状況を見取るための観点に基づき、書く材料を選ぶ力の状況を分析した結果が【図7】である。

児童の記録カードを見ると、食べ物について伝えたい事柄には関係のないものを書いたり、関係はあるが説明を丸写ししたりしていた。また、品種や料理の名前だけを写しており、材料としては不十分な児童もいた。しかし、段階の終末では、96.9%の児童が書こうとする事の中に必要な材料を選ぶことができた。



【図7】書く材料を選ぶ力にかかわる実現状況

このことは、集めた材料を段階的に整理させ、不要な材料を削ったり、説明を詳しくさせたりしたことにより、自分の伝えたい事柄に必要な材料を選びやすくなったためと思われる。実現できなかった1名の児童は、調べた食べ物の品種名だけを書いていた。これは、本に書かれてある説明を読み取ることができないことが原因と考え、個別指導の際、口頭で品種の説明をさせながら、伝えるために必要な材料を補わせた。

これらの実現状況から、書こうとする事に必要な事柄は何かを考えながら書く材料を選ぶことができたと思われる。ただし、調べさせた材料が不十分な場合は、個別に口頭で調べた事について質問を投げかけながら材料を集めさせるといった配慮が必要であると考えられる。

【表7】は、授業の前後に同一問題でテスト【補充資料2 - 】を実施し、t検定による育成状況を表したものである。その結果、有意差が認められた。以上のことから、書く材料を選ぶことができ、力は育成されたものと考えられる。

【表7】書く材料を選ぶ力の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
書く材料を選ぶ力	1.69	1.00	2.00	0.93	0.57	2.12	*

「注」 1 事前テストは8月25日、事後テストは9月20日に実施した
 2 有意差の欄の*は、t検定において有意水準5%で有意差があることを示す
 3 設問は3問で、1問につき1点の3点満点とした
 4 t検定に用いた公式は次に示すとおりである

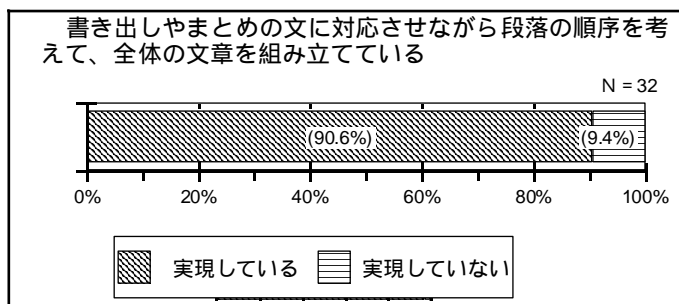
$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n - 1}}}$$

\bar{X}_1 と \bar{X}_2 は事前と事後テストの平均点
 S_1 と S_2 は事前と事後テストの標準偏差
 r は相関係数
 n は人数を表す

イ 文章を組み立てる力の実現状況と育成状況

8頁【表5】の「食べ物はかせになろう」のまとまりを段落として順序を考え構成する段階における実現状況を見取るための観点に基づき、文章を組み立てる力の状況を分析した結果が14頁【図8】である。

児童の短冊原稿用紙を見ると、書き出しには、読み手に対して、問いを出したり、興味をもたせられる事例を挙げたりして、読み手を引き付ける書き方をしていた。まとめの文では、自分が深まった考えや自分が調べた事をさらに調べることを勧める文章を書いていた。また、「なか」に当たる調べた事を書いた複数の短冊原稿用紙の順序については、読み手が分かりやすい事柄を先にしたり、驚かせることができる事柄を最後にしたりするなど、90.6%の児童が段落の順序を工夫した文章を組み立てることができた。



【図8】書く材料を選ぶ力にかかわる実現状況

このことは、書き出しとまとめを書かせた後に「なか」に当たる、調べた事の順序を考えさせたためと思われる。実現できなかった3名の児童は調べた事とまとめや書き出しの言葉が食い違っていた。これは、調べて分かった事を確認せず、まとめの文を書かせたことに原因があると考え、個別に調べた事を書いた段落は何のまとめか確かめさせた。

これらの実現状況から、まとまりを段落として順序を考えながら構成する段階において、相手に伝わりやすい構成を考えて、文章を組み立てることができたと考える。ただし、まとめや書き出しを書く前に、「なか」に書いてある内容を確認させてから活動に取り組みさせる必要があったと考える。

【表8】は、授業の前後に同一問題でテスト【補充資料2 - 】を実施し、t検定による育成状況を表したものである。その結果、有意差が認められた。

【表8】文章を組み立てる力の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
書く材料を選ぶ力	1.38	0.83	2.19	1.00	0.65	5.80	*

「注」 1～4は【表7】と同じである

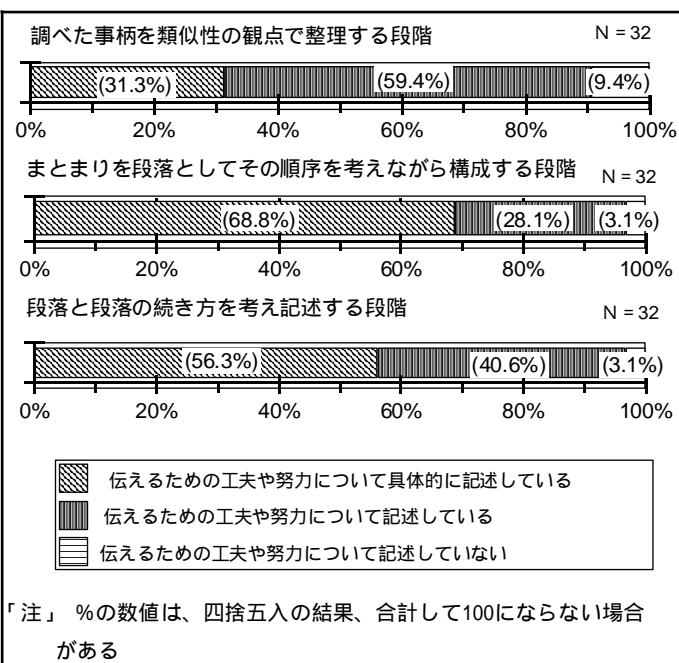
【表8】は、授業の前後に同一問題でテスト【補充資料2 - 】を実施し、t検定による育成状況を表したものである。その結果、有意差が認められた。

以上のことから、文章を組み立てる力は育成されたものとする。

ウ 相手・目的への意識をもち続ける力の変容状況

9頁【表6】の各段階における相手・目的への意識をもち続ける力の変容状況をみる観点とふり返しカードの記述例に基づいて分析した結果が【図9】である。また、抽出児の観察の記録、シートやカードの記述内容をまとめたものが15頁【表9】である。(ふり返しカードは【補充資料4】を参照のこと)

【図9】をみると、どの段階も90%以上の児童が書こうとする事を伝わりやすくするために努力したことを記述している。その中で、読み手に伝えるための工夫や努力を具体的に記述しているAと判断した児童は、「調べた事を類似性の観点で整理する段階」において31.3%であった。その後の段階では、ともに50%を超



【図9】ふり返しカードの記述による相手・目的への意識をもち続ける力の変容状況

え、増加した。

しかし、「段階 段落と段落の続き方を考え記述する」を「段階 まとまりを段落として順序を考えながら構成する」と比較すると、Aと判断した児童が減少している。これは清書を丁寧な文字で書いた努力について記述した児童が多くおり、文章の内容を充実させることよりも清書の際の字形を重視している傾向があったためであると考えられる。

【表9】は、三つの段階において、抽出児が相手や目的を意識して活動に取り組んでいたかについて、ふり返りカードの記述と活動の様子から分析したものである。抽出児のふり返りカードの記述からは、各段階で伝えるために工夫したことが分かる。また、活動の様子をみると、記録カードや短冊原稿用紙に書こうとする事を詳しくしたり、読みやすくしたりするなど、読み手を意識しながら活動していたことが分かる。

以上のことから、調べた事や考えたことが相手に伝わるかを考えながら書く活動に取り組んでいたととらえ、相手・目的への意識をもち続けることができ、スモールステップの活動を支えていたと考える。ただし、「段落と段落の続き方を考え記述する段階」では、Aと判断した児童も誤字・脱字の確認といった文字の見直しにとどまっているため、表現や構成の仕方について目を向けさせることができる指導の工夫が必要であると考えられる。

【表9】抽出児のふり返りカードの記述及び活動の様子

段階	ふり返りカードの記述 (上段は記述させる際の発問)	活動の様子
段階 調べた事を類似性の観点で整理する	書く材料を決めるときに、 伝わるように工夫や努力したことを書きましょう。そして、 読む人はどう思うか考えましょう。 はじめは書くざいりょうが なかなか集まらなかったけど、 だんだん集まったのでよかったです。 読む人に分かりやすく いろいろなことぐわしく つたえられそうです。	ジャガイモについて分かった事の中から、来年の3年生や家の人が知らないかもしれない料理があると考え、書こうとする事を「ジャガイモの料理」とした。 必要だと思う材料を10こ集めて、「焼く」「煮る」「すりつぶす」の観点で料理を分類した。
段階 まとまりを段落として順序を考え構成する	段落ごとに文章を組み立てるときに、伝わるように工夫や努力したことを書きましょう。そして、読む人はどう思うか考えましょう。 まとめや書き出しを書くのをがんばりました。読む人が読み終わって、また読みたいというふうにおもしろく、楽しくつたわりそうです。	書き出しにジャガイモの料理を知っているか問いかける文を入れたり、まとめの文に他の料理を探してみることを呼びかけたりするなど、読み手に語りかけるように文章を書いていた。
段階 段落と段落の続き方を考え記述する	説明文を完成するために、伝わるように工夫や努力したことを書きましょう。そして、読む人はどう思うか考えましょう。 せい書で、ひとつにたわるように書くのをがんばりました。まちがえた字や言葉をつけたしたりしたので読む人に つたわりそうです。	簡単な料理から手のかかる料理の順序で書いていることが分かるように接続語を付けたり、語句を付け加えたりしてから清書に臨んだ。

「注」1 ふり返りカードの記述の____部分は相手・目的を意識したことが書かれてある表現
2 活動の様子の____部分はふり返りカードの記述に対応していると考えられる様子

5 小学校国語科における書こうとする事の中心を明確にして書く力を高める指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 調べた事を類似性の観点で整理する段階をスモールステップに分けて指導したことにより、不要な事柄や補わなければならない材料を明らかにし整理させることができ、書く必要のある材料を選ぶ力を育成することができた。

イ まとまりを段落として順序を考え構成する段階をスモールステップに分けて指導したことにより、調べた事によって深まった考えに基づいて文章の順序を考させることができ、文章を組み立てる力を育成することができた。

ウ ふり返りカードの活用により、それぞれのスモールステップにおいて、書こうとした目的や

誰に読んでもらいたいかということを常に意識させることができた。また、自分が何を工夫したのか、何を努力したのかについてもふり返らせることができた。

(2) 課題

段落と段落の続き方を考え記述させたが、内容まで吟味させるという推敲の指導が不十分であった。 の「自分で確かめる」と の「友だちと確かめ合う」といった活動に着目したスモールステップについて学習内容を示すことができるように検討する必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた手だての試案は有効であり、書こうとすることの中心を明確にして書く力を高めることに効果があったと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れたことにより、小学校国語科における書こうとする事の中心を明確にして書く力を高める指導の在り方について明らかにし、小学校国語科の学習指導の改善に役立たせようとするものであった。その結果、仮説が妥当であったことが確かめられた。なお、成果として次のようなことが得られた。

(1) 小学校国語科における書こうとする事の中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本構想

小学校国語科における書こうとする事の中心を明確にして書く力を高める指導に関する基本的な考え方や、調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れる意義と学習の展開を明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

手だての試案を作成するに当たって、国語科の学習における書く活動に関する実態を把握するために、実態調査を行った。調査結果から明らかになったことから手だての試案作成上の留意点をまとめることができた。

(3) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想及び実態調査から明らかになった手だての試案作成上の留意点を基にして、手だての試案を作成した。調べた事をまとめる活動において、段階 ~ におけるそれぞれのねらいを達成するためのスモールステップを取り入れた学習指導案作成のための手だての試案とすることができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

調べた事をまとめる段階的な指導を取り入れた手だての試案に基づいた授業実践を行った。授業実践の分析と考察により、書こうとする事の中心を明確にして書く力の育成が認められ、手だての試案の有効性をみることができた。

(5) 小学校国語科における書こうとする事の中心を明確にして書く力を高める指導に関する研究のまとめ

小学校国語科における書こうとする事の中心を明確にして書く力を高める指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後更に生かすための課題として次のようなことが考えられる。

- (1) 調べた事をまとめる段階的な指導におけるスモールステップを児童の実現状況に応じて、弾力的に取り入れることができる指導の在り方を明らかにする。
- (2) 調べた事をまとめる活動におけるスモールステップを他教科や総合的な学習の時間などの学習に生かし、書く力をより高める指導の在り方を検討する。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

- 青山由紀（2003）,「調べ学習を深める言葉の研究レポートの書き方」, 学事出版
石田佐久馬（1995）,「どの子ども書きたくなる作文指導のアイデア58」, 小学館
市毛勝雄（1997）,「作文の授業改革論」, 明治図書
井上一郎著（2002）,「ことばが生まれる」, 明治図書
小森 茂, 大熊徹, 西村孔希（1999）,「情報教育と国語科の授業の構想と展開」, 明治図書
首藤久義（2004）,「書くことの学習支援」, 東洋館出版社
長尾幸彦（2004）,「情報を収集し、再構成する力の育成」,『実践国語研究 255』, 明治図書

【補充資料】

<目 次>

【補充資料 1 - 】	
手だての試案作成のための実態調査問題	資 1
【補充資料 1 - 】	
手だての試案作成のための実態調査問題	資 1
【補充資料 1 - 】	
手だての試案作成のための実態調査問題	資 1
【補充資料 2 - 】	
書こうとすることの中心を明確にして書く力の育成状況を見る事前・事後テスト用紙 (書く材料を選ぶ力)	資 2
【補充資料 2 - 】	
書こうとすることの中心を明確にして書く力の育成状況を見る事前・事後テスト用紙 (文章を組み立てる力)	資 2
【補充資料 3 - 】	
単元「大事なことをたしかめよう」指導略案 (1・2 / 11時間)	資 3
【補充資料 3 - 】	
単元「大事なことをたしかめよう」指導略案 (3・4 / 11時間)	資 4
【補充資料 3 - 】	
単元「大事なことをたしかめよう」指導略案 (5 / 11時間)	資 5
【補充資料 3 - 】	
単元「大事なことをたしかめよう」指導略案 (6 / 11時間)	資 6
【補充資料 3 - 】	
単元「大事なことをたしかめよう」指導略案 (7 / 11時間)	資 7
【補充資料 3 - 】	
単元「大事なことをたしかめよう」指導略案 (8・9 / 11時間)	資 8
【補充資料 4】	
ふり返しカード	資 9
【補充資料 5 - 】	
品種について調べた児童の作文 (実践の概要の段階 において例示した児童)	資10
【補充資料 5 - 】	
料理法について調べた児童の作文 (実践の概要の段階 において例示した児童)	資10
【補充資料 5 - 】	
品種について調べた児童の作文	資11
【補充資料 5 - 】	
栄養について調べた児童の作文	資11

【補充資料 1 - 1】手だての試案作成のための実態調査問題

このちようきは、国語の勉強についてのみなさんの様子を調べるものです。テストではありませんので、心配しないで書いてください。

三年 番 ()

一 次の言葉の意味を国語辞典で調べて、書きましよう。どの言葉から調べてもいいです。時間は五分間です。

研究	
申しこむ	
チーム	
がけ	

二 次の文には、文字がぬけていたり、まちがっていたりするところがあります。れいのように「やーを」をつけてなおしましょう。

(れい)
あしたは遠足です。しきものやおかしをリュックに入れました。じゅんぴははつちりです。朝ねぼうしをいように早くねようと思います。

(もんだい)
運動会でがんばったことはつな引きです。みんなで力が合せてひっぱりました。勝ったときは、みんなでよっこひめました。

【補充資料 1 - 2】手だての試案作成のための実態調査問題

三 「せんちゃん」と「とくちゃん」がいてある食べ物ななまで分けました。の中に、何のななまか名前をつけてください。

リンゴ サクランポ トマトは

のななままだよ

リンゴ メロン サクランポは

のななままだよ

せんちゃん とくちゃん

リンゴ ビーマン サクランポ トマト

メロン ホウレンソウ キュウリ

【補充資料 1 - 3】手だての試案作成のための実態調査問題

四 下のマス目に□の中の文章を書き写しましよう。時間は一分間です。

トノサマバッタは、自分の体の色がほこ色になるような場所をえらんですんでいるようです。トノサマバッタには、緑色のものとカッコ色のものがあります。野外で調べてみると、緑色の草むらにいろのは、ほとんど緑色のバッタで、かれ草やおち葉の上にいるのは、ほとんどがカッコ色です。

【出典】
東京書籍新しい国語三年上
「自然のかくし絵」矢野龍

【補充資料 2 - 】書こうとする事の中心を明確にして書く力の育成状況をみる事前・事後テスト用紙(書く材料を選ぶ力)

「書くこと」についての事前事後テスト①
三年 番 () ()

田中さんは、「ザリガニの飼ひ方」という題名で、作文を書くことにし、次のようなメモを作りました。
メモを照て、あとの問題に答えましょう。

〔田中さんが作ったメモ〕

① 水そうの水は、あつくなりすぎないようにする。	② ザリガニは、水草をえさにして食べる。	③ ザリガニは、むねのぶぶんをもつ。	④ ハサミはけんかのときにつかう。
⑤ ねるときのために、パイプをおく。	⑥ ザリガニつりは、子どもだけで行かない。	⑦ ザリガニがけなないように、水そうにふたをする。	⑧ ザリガニは、一つの水そうに二匹までしか入れない。

一 メモの中から、「ザリガニの飼ひ方」という題名と合っていない事があるを二つえらび、□に番号を書きましょう。

□ □

二 ①をさらにくわしく書こうとするとき、次の中のどのことを書けばよいですか。ア～エから一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア 水そうには、すなをしいておく。
イ にほしやすめるめをえさにする。
ウ 水の温度は二十五度くらいがよい。
エ たまごをうんだザリガニは、べつの水そうに入れる。

- 1 -

【補充資料 2 - 】書こうとする事の中心を明確にして書く力の育成状況をみる事前・事後テスト用紙(文章を組み立てる力)

「書くこと」についての事前事後テスト②
三年 番 () ()

次の文章を読んで、下の問題に答えてください。

① 夏から秋にかけて、あちらこちらの水辺でたくさんのおんぼを見かけます。わたしたちにとって、トンボはとても身近な昆虫です。

② とこで、そのおんぼたちが、いろいろなひみつをもっているのを知っていますか。

③ まず、一つめのひみつは、そのしゅるいがとても多いことです。日本には、およそ二百しゅるい、世界には、なんとやぐ五千しゅるいものおんぼが生きています。

④ 二つめのひみつは、とても古くから地球にすんでいることです。おんぼの祖先が生まれたのは、やぐ三億年前です。日本には、ムカシトンボというめずらしいおんぼがいます。このおんぼは、「生きた化石」とよばれています。一億五千年ほど前に生きていたおんぼによく似ているからです。

⑤ 三つめのひみつは、そのとび方です。四まいの羽をしようずに動かし、時速百キロメートルものスピードを出したり、バックやちゅうがえりをしたりすることもできます。

⑥ 一つめのひみつは、おんぼは、夏から秋にたくさんとんでいる。同じ地球にすむなかまとしては、人間よりもずっと先ばいのおんぼには、まだまだわたしたちの知らないおんぼのひみつがかくまれているかもしれません。

一 この文章は、「はじめ」「なか」「おわり」の二つに分けられます。「なか」は、③④のうちどこからどこまでですか。□に番号を書きましょう。

□ □

から まで

二 ⑤の () に入るふさわしい言葉を、次のア～エから一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア そして
イ それから
ウ このように
エ だから

三 この文章を書いた人は、どんなことをつたえたのですか。ふさわしいものを、ア～エから一つえらび、その記号に○をつけましょう。

ア おんぼは、夏から秋にたくさんとんでいる。
イ おんぼには、いろいろなひみつがある。
ウ おんぼには、とくいなことがたくさんある。
エ おんぼは身近にいるので、よく知っている。

- 1 -

【補充資料3 - 】単元「大事なことをたしかめよう」の指導略案（1・2 / 11時間）

(1) 目標

- ・食べ物の本を読むことにより、伝えたいという思いをもつことができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・食べ物について調べた事柄の中から、伝えるねうちのある事柄を選ぶことができる。
(書くこと的能力)

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (25)	<p>1 単元の課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">食べ物について調べて、本にまとめよう</div> <p>2 本時の学習課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">食べ物を調べて、どんなことを本にするのか決めよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物について知っていることや疑問に思っていることを話し合わせる ・ふり返りカードに掲載している学習計画から、調べた事をまとめる過程を理解させる ・本時のスモールステップを示し、食べ物の伝えたい事柄を決める手順を把握させる
展 開 (58)	<p>3 題材となる食べ物を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある食べ物の名前を出し合う ・調べる食べ物を決める <p>4 題材とした食べ物の知識をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読み、記録カードに分かったことや感想を書く ・食べ物のことについて分かったことを話し合う <p>5 書く事柄を決める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の図書館から借りてきた本の題名を提示し、題材を決める手がかりとさせる ・調べたいと思ったわけを明らかにさせる ・文章の読み取りを苦手としている児童には、写真や絵に着目させて読ませる ・記録カードには、「おもしろいこと」「驚いたこと」「不思議なこと」を観点として調べたことを書かせる ・調べて分かった事を栄養や料理法、育て方、歴史、種類に分類し、興味の強い事柄を書く事柄とさせる ・読む人にとって書く事柄が役立つわけを話し合わせる
終 末 (7)	<p>6 目的をふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りカードに題材と書こうとする事、伝えたい相手を記入させ、書く事柄と書く目的を確認させる

【補充資料3 - 】単元「大事なことをたしかめよう」の指導略案（3・4 / 11時間）

(1) 目標

- ・調べたい食べ物の本の中から伝えたい事柄に関係のある部分を読むことにより、書く材料を集めることができる。 （書くこと的能力）

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	<p>1 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">書くざいりょうを集めよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の集めることと集めた材料の語句の意味を確かめる活動を行うことの必要性を理解させる
展 開 (78)	<p>2 材料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めるために必要な本を選ぶ ・本の調べ方を知る ・本の内容を記録カードに書き込む <p>3 語や文の意味を確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味を調べる必要のある言葉を確認する ・言葉の意味を調べ、記録カードに添付する 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の記録カードから、調べるための本の題名を確認させる ・本の見出しや目次、索引の活用の仕方を理解させ、必要な材料が書かれている部分を探させる ・本の文章から要点となる語句を写すことを理解させる ・素早く書き写す必要性を理解させ、文章を写す際には文節をとらえて書くように指導する ・意味の分からない語句や詳しく調べる必要のある語句にサイドラインを引かせる ・国語辞典の使い方の学習をふり返らせる ・読み手にとって特に難しいと思われる言葉を考えさせてから、調べさせる
終 末 (7)	<p>4 目的をふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の集めたことにより、伝えたい事柄が詳しくなったかを観点にふり返らせる

【補充資料3 - 】単元「大事なことをたしかめよう」の指導略案（5 / 11時間）

(1) 目標

- ・調べた事柄を補ったり、削ったりしながら整理することにより、書く必要のある材料を選ぶことができる。 （書くこと的能力）

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	1 課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べた事の中から書く必要のある材料を選ぼう</div>	・集めた材料を分類した上で、材料を削ったり補ったりする活動の必要性を理解させる
展 開 (30)	2 メモを分類する ・記録カードの内容を類似性を考えて分類し、小見出しを付ける 3 材料を選択する ・小見出しに沿って材料を分類表に貼る 4 材料を補う ・記録カードを見直し、足りない材料を付け足す	・児童の記録カードの内容から分類の観点を予想し、提示することにより、分類の観点を考えさせる ・分類できなかった材料は、書くかどうか考えさせ、必要であれば新たに小見出しを作らせ、関係のないカードは削除させる ・説明の足りない記録カードには、本を改めて読ませ、言葉を付け足させる ・説明を付け足せない児童には、机間指導の際に内容について問いを投げかけて口頭で答えさせる
終 末 (10)	5 目的をふり返る	・調べた事柄を整理するためのスモールステップの中で、工夫や努力したことと読み手に伝わりやすくなっているかを考えさせる

【補充資料3 - 】単元「大事なことをたしかめよう」の指導略案（6 / 11時間）

(1) 目標

- ・分類した材料のまとまりを文として記述させることにより、段落を意識して文章に組み立てることができる。
(書くこと的能力)

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (7)	1 課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">調べた事を文章にまとめよう</div>	・記録カードに書いた事柄を書き換えた上で、文章を組み立てる必要性を理解させる
展 開 (33)	2 語や文の書き換えをする <ul style="list-style-type: none"> ・文末を敬体に揃える ・意味の難しい言葉を分かりやすい言葉に置き換える 3 分類した材料を文章にする <ul style="list-style-type: none"> ・材料を書く順序を決める ・小見出しと分類した材料をつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録カードの行間を使って挿入や訂正、削除する方法を提示する ・小見出し書くことを知らせ、主語と述語を付け加えさせる ・記録カードに番号を付けさせ、書く順序が明らかにさせる ・小見出しを文にしたものが段落の中心文であることを指導し、短冊原稿用紙の初めに書かせる ・書き終わった児童は文章を読み返させ、必要に応じて文章を修正させる
終 末 (5)	4 目的をふり返る	・材料を文章にしたことにより、調べた事が伝わりやすくなったかをふり返らせる

【補充資料3 - 】単元「大事なことをたしかめよう」の指導略案（7 / 11時間）

(1) 目標

- ・「なか」の段落の順序を決めさせることにより、段落相互の関係を考えて文章全体を組み立てることができる。 （書くこと的能力）

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	<p>1 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>だんらくの組み立てを考え て、文章を組み立てよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「なか」「おわり」を組み立てるために、ま とめの文と書き出しの文を書くことと、「なか」あたる 調べた事の段落の順序を決める必要性を理解させる
展 開 (30)	<p>2 まとめの文を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた事を一文にまとめる ・自分の考えや思いを書く <p>3 書き出しを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き出しに書く内容を知る ・書き出しの工夫を考える <p>4 全体の構成を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なか」の構成の観点を知る ・「なか」の段落の順序を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・「このように」と指示語を付けさせた上で、調べた事 を短くまとめた文を書かせる ・題材についての今までもっていた考えから深まったこ とや読み手に呼びかけたいことを考えさせる ・書き出しは、全体の概要を紹介するために調べた事を まとめた文を入れる必要があることを指導する ・調べた事を生かした問いの文や呼びかけの文などの読 み手を引きつけるための工夫があることを指導する ・「なか」の段落の順序を決める観点には、 の順序 があることを知らせ、内容に応じて順序を決めさせる 時間的な順序 一般的な事例から特殊な事例に説明していく順序 ・順序を決める観点を考えさせ、短冊原稿用紙に書く順 序が分かるように番号をふらせる
終 末 (10)	<p>5 目的をふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を組み立てるためのスモールステップの中で、工 夫や努力したことと、読み手に伝わりやすくなってい るかを考えさせる

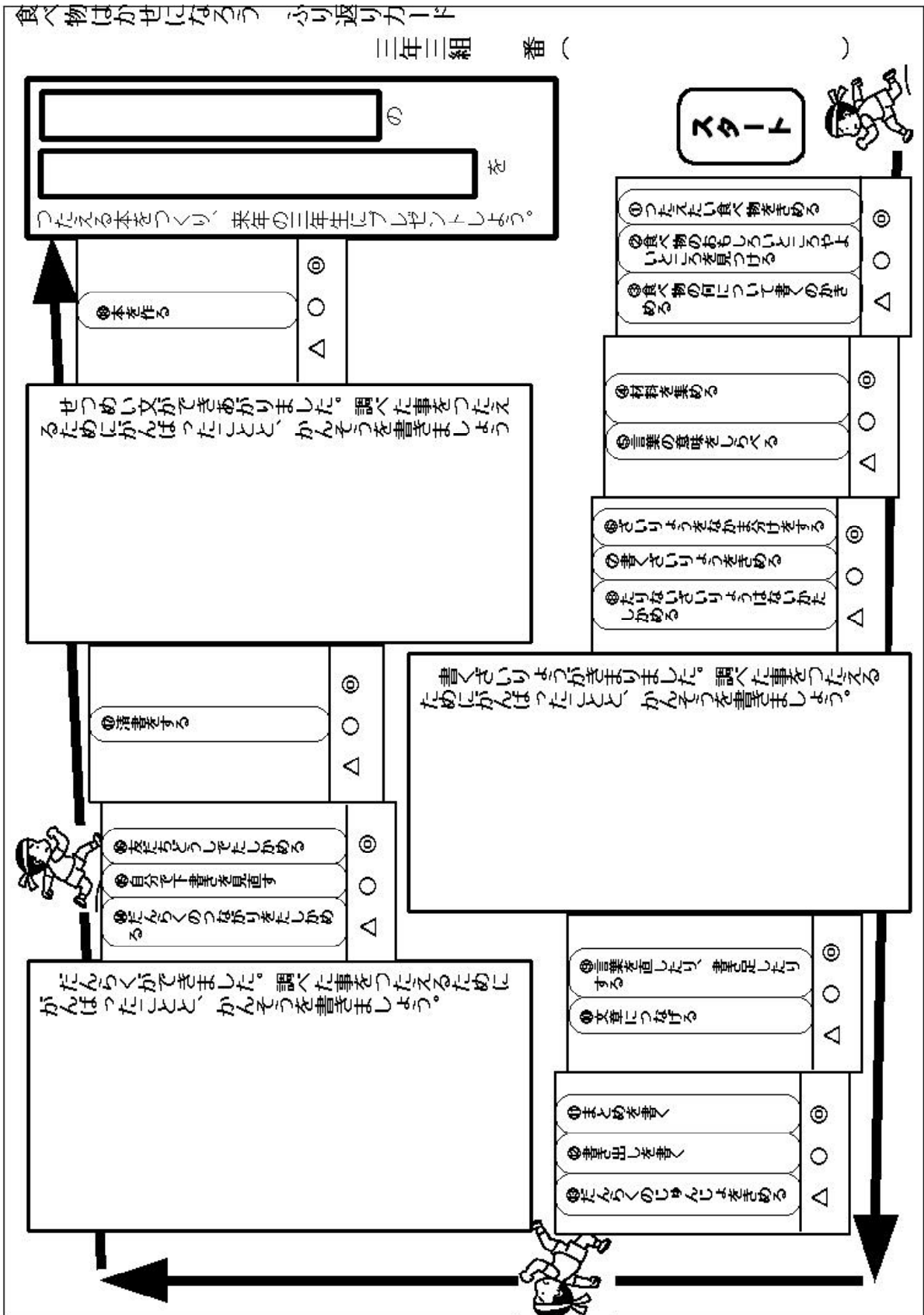
【補充資料 3 - 】単元「大事なことをたしかめよう」の指導略案（8・9 / 11時間）

(1) 目標

- ・文章を見直すことにより、文脈を考えて文章を書くことができる。 （書くこと的能力）
- ・指示語や接続語の使い方を理解し、必要に応じて指示語に置き換えたり、接続語を付け加えたりすることができる。 （言語についての知識・理解・技能）

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (太字ゴシックはスモールステップ)	指 導 上 の 留 意 点 (太字ゴシックはふり返りカードの活用)
導 入 (5)	1 課題を把握する 段落をつないで、説明文を完成しよう	・完成させるために、短冊原稿用紙の内容のつながりを確かめることと、自分以外の目でも確かめてもらう必要性を理解させる
展 開 (78)	2 段落のつながりを考える ・必要に応じて指示語や接続語を付ける 3 自力で見直しをする ・原稿を音読させる ・必要に応じて挿入や訂正、削除をする 4 友だちと見直しをする 5 清書をする ・写す部分を確認する ・原稿用紙に書く	・指示語や接続語を入れることにより、説明やその順序が分かりやすくなる場合があることを指導し、必要に応じて指示語の置き換えや接続語を挿入させる ・誤りを見つける方法として、原稿を音読することの有効性を指導する ・見直しのポイントとして次の ~ を提示する 接続語、指示語 文体 誤字脱字 ・生活班のグループの中で2人以上に確かめさせる ・間違いや意味の分からない部分があった場合は本人に口頭で伝えさせる ・教師が修正をした部分がある児童には個別に指導をする ・写す部分を赤鉛筆でサイドラインを引かせ、書く必要のある部分を明らかにさせる ・鉛筆の濃さとマスの中心、文字の大きさを揃える必要性を理解させる
終 末 (7)	6 目的をふり返る	・短冊原稿用紙の内容を清書にするまでのスモールステップの中で、工夫や努力したことと読み手に伝わりやすくなったかを考えさせる



【補充資料 5 - 】品種について調べた児童の作文

<p>ナスの形と色</p> <p>ナスは、いろいろな形があります。ナスは細長い形で、色はむらさきだけだと思っ ていませんか。それはちがいます。ナスは細長い形だけでなくとも長い形や丸い形があります。色も赤、白、黄色もあり ます。</p> <p>はじめに、長いナスを教えます。長い人形ナスは長ナスとたまご形ナスの中間です。このナスの 実り長さは、二十センチメートルから二十五センチメートルくらいあります。</p> <p>次に丸いナスを教えます。たまご形ナスは地りく地方から来た丸いナスが、かんとう地方でたまご形ナスになりました。小丸ナスはからしつけのつけものにする とごろもありません。</p> <p>ナスは二にめずらしいナスを教えます。白いナスが、生でも食べられるけど、見て楽しむことか多いそうです。ほかにも、トマトにている赤いナスや、きつねの顔にているフグナスや、クレスフェインスがあります。</p> <p>このようにナスはいろいろな形と色があるのです。ほくは、本を讀んだとき、ナスはいろいろな色があるんだと 思いました。みなさんもナスの本を讀んでみるといいですよ。</p> <p>(4)</p>	<p>ナスは、いろいろな形があります。ナスは細長い形で、色はむらさきだけだと思っ ていませんか。それはちがいます。ナスは細長い形だけでなくとも長い形や丸い形や丸い形があります。色も赤、白、黄色もあり ます。</p> <p>はじめに、長いナスを教えます。長い人形ナスは長ナスとたまご形ナスの中間です。このナスの 実り長さは、二十センチメートルから二十五センチメートルくらいあります。</p> <p>次に丸いナスを教えます。たまご形ナスは地りく地方から来た丸いナスが、かんとう地方でたまご形ナスになりました。小丸ナスはからしつけのつけものにする とごろもありません。</p> <p>ナスは二にめずらしいナスを教えます。白いナスが、生でも食べられるけど、見て楽しむことか多いそうです。ほかにも、トマトにている赤いナスや、きつねの顔にているフグナスや、クレスフェインスがあります。</p> <p>このようにナスはいろいろな形と色があるのです。ほくは、本を讀んだとき、ナスはいろいろな色があるんだと 思いました。みなさんもナスの本を讀んでみるといいですよ。</p> <p>(3)</p>	<p>ナスは、いろいろな形があります。ナスは細長い形で、色はむらさきだけだと思っ ていませんか。それはちがいます。ナスは細長い形だけでなくとも長い形や丸い形や丸い形があります。色も赤、白、黄色もあり ます。</p> <p>はじめに、長いナスを教えます。長い人形ナスは長ナスとたまご形ナスの中間です。このナスの 実り長さは、二十センチメートルから二十五センチメートルくらいあります。</p> <p>次に丸いナスを教えます。たまご形ナスは地りく地方から来た丸いナスが、かんとう地方でたまご形ナスになりました。小丸ナスはからしつけのつけものにする とごろもありません。</p> <p>ナスは二にめずらしいナスを教えます。白いナスが、生でも食べられるけど、見て楽しむことか多いそうです。ほかにも、トマトにている赤いナスや、きつねの顔にているフグナスや、クレスフェインスがあります。</p> <p>このようにナスはいろいろな形と色があるのです。ほくは、本を讀んだとき、ナスはいろいろな色があるんだと 思いました。みなさんもナスの本を讀んでみるといいですよ。</p> <p>(2)</p>	<p>ナスは、いろいろな形があります。ナスは細長い形で、色はむらさきだけだと思っ ていませんか。それはちがいます。ナスは細長い形だけでなくとも長い形や丸い形や丸い形があります。色も赤、白、黄色もあり ます。</p> <p>はじめに、長いナスを教えます。長い人形ナスは長ナスとたまご形ナスの中間です。このナスの 実り長さは、二十センチメートルから二十五センチメートルくらいあります。</p> <p>次に丸いナスを教えます。たまご形ナスは地りく地方から来た丸いナスが、かんとう地方でたまご形ナスになりました。小丸ナスはからしつけのつけものにする とごろもありません。</p> <p>ナスは二にめずらしいナスを教えます。白いナスが、生でも食べられるけど、見て楽しむことか多いそうです。ほかにも、トマトにている赤いナスや、きつねの顔にているフグナスや、クレスフェインスがあります。</p> <p>このようにナスはいろいろな形と色があるのです。ほくは、本を讀んだとき、ナスはいろいろな色があるんだと 思いました。みなさんもナスの本を讀んでみるといいですよ。</p> <p>(1)</p>
--	--	--	--

【補充資料 5 - 】栄養について調べた児童の作文

<p>コメのエネルギー</p> <p>米とパンでは、どちらの方に多いようが多いかわかりませんが、それは、米食んです。米には、いろいろなビタミンとミネラルがあります。はじめに、デンプンについて教えます。デンプンは、カを出すはたらきをもち、それ に、ちがう食べ物にも合うので、まぜて食べると、カがでます。米は七 十パーセントもデンプンなのです。</p> <p>デンプンを多くするほうを教えます。それは、米をもちにする事です。米をもちにする事で、デンプンがふえても っとパワーが出るのです。</p> <p>そのほかのことを教えます。昔から米を食べると、元気がなるといわれます。米を食べると、はがじょうぶになるといわれます。</p> <p>このように、米は、デンプンがたっさんあって、エネルギーになるのです。あたしは、米にあるデンプンのことと、わ しく知りました。ちがうと、たけのこや、わかずには、なれたと思います。みなさん、ぐあ いかわるよ。たらごほんを食べるといいですよ。</p> <p>(3)</p>	<p>コメのエネルギー</p> <p>米とパンでは、どちらの方に多いようが多いかわかりませんが、それは、米食んです。米には、いろいろなビタミンとミネラルがあります。はじめに、デンプンについて教えます。デンプンは、カを出すはたらきをもち、それ に、ちがう食べ物にも合うので、まぜて食べると、カがでます。米は七 十パーセントもデンプンなのです。</p> <p>デンプンを多くするほうを教えます。それは、米をもちにする事です。米をもちにする事で、デンプンがふえても っとパワーが出るのです。</p> <p>そのほかのことを教えます。昔から米を食べると、元気がなるといわれます。米を食べると、はがじょうぶになるといわれます。</p> <p>このように、米は、デンプンがたっさんあって、エネルギーになるのです。あたしは、米にあるデンプンのことと、わ しく知りました。ちがうと、たけのこや、わかずには、なれたと思います。みなさん、ぐあ いかわるよ。たらごほんを食べるといいですよ。</p> <p>(2)</p>	<p>コメのエネルギー</p> <p>米とパンでは、どちらの方に多いようが多いかわかりませんが、それは、米食んです。米には、いろいろなビタミンとミネラルがあります。はじめに、デンプンについて教えます。デンプンは、カを出すはたらきをもち、それ に、ちがう食べ物にも合うので、まぜて食べると、カがでます。米は七 十パーセントもデンプンなのです。</p> <p>デンプンを多くするほうを教えます。それは、米をもちにする事です。米をもちにする事で、デンプンがふえても っとパワーが出るのです。</p> <p>そのほかのことを教えます。昔から米を食べると、元気がなるといわれます。米を食べると、はがじょうぶになるといわれます。</p> <p>このように、米は、デンプンがたっさんあって、エネルギーになるのです。あたしは、米にあるデンプンのことと、わ しく知りました。ちがうと、たけのこや、わかずには、なれたと思います。みなさん、ぐあ いかわるよ。たらごほんを食べるといいですよ。</p> <p>(1)</p>
---	---	---